

三十八隻八萬六千トンを撃沈したと大々的に宣傳してゐるが本日英空相の發表する處によ
ると右の護送船團は十一月五日九隻一萬四千トンを除く外は何れも無事英國の港に入灣し
てゐるとドイツ側の不正確なニュースを一笑してゐる、

一、(ロンドン)チャーチル首相は次の様に發表した、

ドイツ空軍の空襲により十月中の死者六千三百三十四名、負傷者八千六百
九千九十五名であるが去る九月中の死者六千九百五十四名負傷者一萬六百十六名に比較す
るとは甚だ程度の次第に衰へつつある事が分る

二、(ブカレスト)大震災後市中到る處に火災と毒瓦斯の爲めに本日發見された死體のみにて
二千名に達し一萬四千トンの石油貯藏庫の爆發物凄く一ヶ所より七十名の死體を發掘した
處もあり慘狀を極めてゐる、

(ワシントン)ワシントン政府は對英援助に全力を注ぎ目下晝夜兼行全能力を發揮しつづ
ある陸軍省の發表によると生産の軍需品の半分は英國向け残る半分は米國國防用とし來月
はシヤトルのボーイング飛行機製作所の飛行機二十六臺仕上の内十三臺は英國向けこの飛
行機の性能は高度二千五百フィート……(以下妨害電波の爲め不明)

一、(ワシントン)昨日米國東部地方に勃發した工場の爆發事件について米國聯邦調査局では
目下原因取調中であるが第五列の暗闇が問題視されつつある折りから頗る注目されつつあ
る、
二、(ニューヨーク)モロトフソ連外相のベルリン訪問のニュースを入れてニューヨーク本日
の市場は一齊に下向き主要株共一弗より三弗の下落をみた、

海外特殊情報

内閣情報部一五・一一・一五(金)

第一號

◎御前會議の反響

一 同盟入電一不發表

香港十四日發同盟一十三日舉行された御前會議は早くも重慶側に多大の反響を與へつつあり
會議直後のこととして重慶の情報は未だ審らかでないが當地國民日報(國民黨機關紙)は會議
の模様を大々的に報ずると共に消息通の談として會議の内容について左の如き觀測を出して
ゐる

現に歐亞米三大大陸の情勢動搖し新な變化が醸成されつつある微妙な時期に於て日本側が御
前會議を舉行したに就ては其の内容は極めて重大なものがあらう、會議の主題は對支問題
にあると言はれてゐるが然し全世界が斯くも複雑してゐる折柄日獨、日米、日蘇等の諸問
題も連帶的に討論されたこと斷定すべきである

獨逸は現に日本に對して樞軸同盟に基き積極的役割を演ぜん事を要請してゐる際だから南
進問題にも關聯してゐるかも知れないがいつれにしろ現段階に至れる對支問題は總括的に
討論されるであらう、モロトフがベルリンを訪問しグルーが松岡と會談した事も間接的に

は日支問題に關係を持つ事になるので御前會議の内容も決して單純なものではないと思はれる

第二號

◎日ソ極東勢力圏設定は虚報

—同盟入電—不發表

モスクワ十五日午前四時發同盟(タス電)UP電は外交界より得たる情報として日本はソ聯との間に極東勢力圏分割に關し、ソ聯の援蔣行爲停止をも含む協定成立に漕ぎつけたと報じてゐるが、タス通信社はソ聯政府に代り、右報道が全く事實と一致せざることをこゝに明かにするものである。

第三號

◎松宮ドク—會見

—同盟入電—不發表

河内十四日發同盟—松宮大使は十四日午後六時總督官邸にドク—總督を訪問専門委員の間に於いて交渉を進めてゐた諸問題の意見の分れてゐる點に就いて一時間余りに亘り折衝したが尙交渉の前途には相當の難問題が潜在してゐる模様である

第四號

◎獨ソ會談の二大目標、英官の觀測

同盟入電—不發表

ロンドン十四日發同盟 モロトフ外務人民委員の歸國によつて幕を閉されたベルリン獨ソ會談の内容に關しては英官は終始重大關心を絶せその成行きを注目してゐたが外務省前では右會談の主要目標は

一、ヒットラー總統は樞軸の堡壘を近東方面、即ちダーダネルス海峡並に油田地方に迄伸張せんとしてゐること

二、日本が支那で手を抜き全力を他の方面に向けしめんとすること

の二點にあると見てゐる、而してヒットラー總統は獨ソ兩國が友好的な勢力範圍の協定に到達することが出れば海峡への途は開かれるであらうとの結論に達し、これにより海峡の獨ソ共同管理か、或はソ聯のイラン、アフガニスタン、インド方面進出承認を代償として海峡を獨の獨占下に置くことを内容とするものではないかと見てゐる。第二の點に關し當地外交消息通筋では支那から日本の手を抜かせることにより米國の太平洋方面に對する懸念を増大し、以て米國の大西洋を越えての對英援助を減せしめんことをドイツは企圖してゐると見てゐる而して重慶方面からの情報によれば過激派ドイツ人が重慶部内の和平派を支持し、之が

據頭に暗躍を續けてゐるを傳へらるが、今回の獨ソ會談に於いてもソ聯が對將援助の中止を確約することを條件に日ソ不可侵條約締結を斡旋したものと解される。之を要するに今回の獨ソ會談中極東に關する問題は將政權の抗戰力を削滅し、日本が太平洋にその威力を誇示し得るやうな事態を實現せんと工作されたと見るべきである。

本日の新聞會報 (海六百六十九號) 内閣情報部 一五・二一・二五 (金)

内 容 目 次

- △事變處理の前進 (日日)
- △新體制問題
 - 一、新體制に對する國民の希望 (中外)
 - 一、獨ソ會談の結果 (朝日)
 - 一、獨ソ會談の眼目 (報實)
 - 一、獨ソ會談の進路 (報知)
- △明年度の米の問題 (朝日)
- △東亞における新生フランス (國民)

× × ×

△事變處理の前進 (日日)

事變處理に就ては既に原則たる近衛聲明が存在し汪政權支援に依る方式が大國策として決定し歴代内閣また屢次の聲明に於て此點を明かにしてゐる。而して三國同盟に依つて生ずる新事態は前記のわが支那事變處理方針を此も變更せしむべき理由はなく、寧ろ其效果

1 (11月15日)

114